

2012年12月11日
産業横断 職務発明制度フォーラム

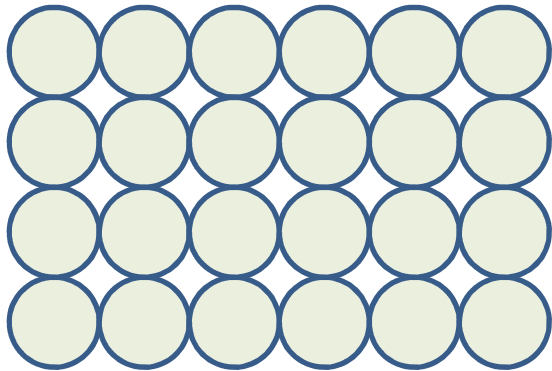
製薬業界における事業化の実態と職務発明の課題

- 医薬品特許の特性
- 医薬品の研究・開発のプロセス
- 製薬業界における課題

アステラス製薬株式会社 知的財産部長
日本製薬工業協会 知的財産委員会 副委員長
森田 拓

医薬品特許の特性

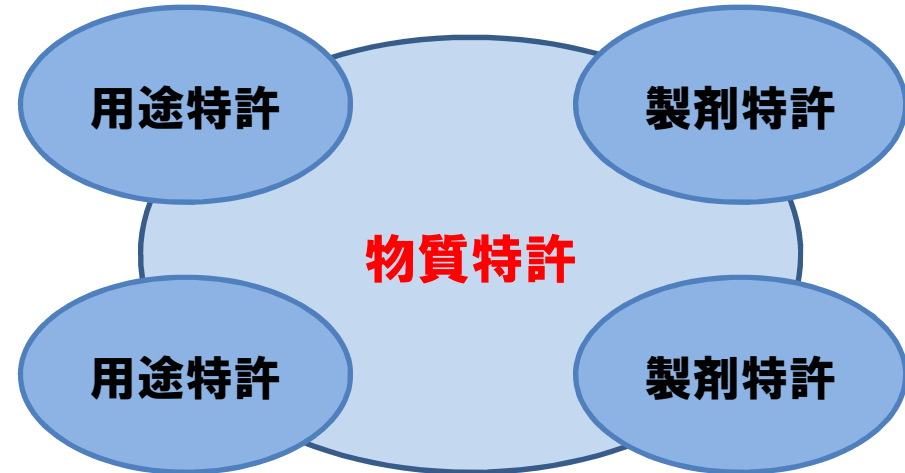
自動車、家電など



製品あたり、数百から数千の特許。
一つの特許の影響は小さい

特許の存在が開発を妨げる可能性は低い

医薬品



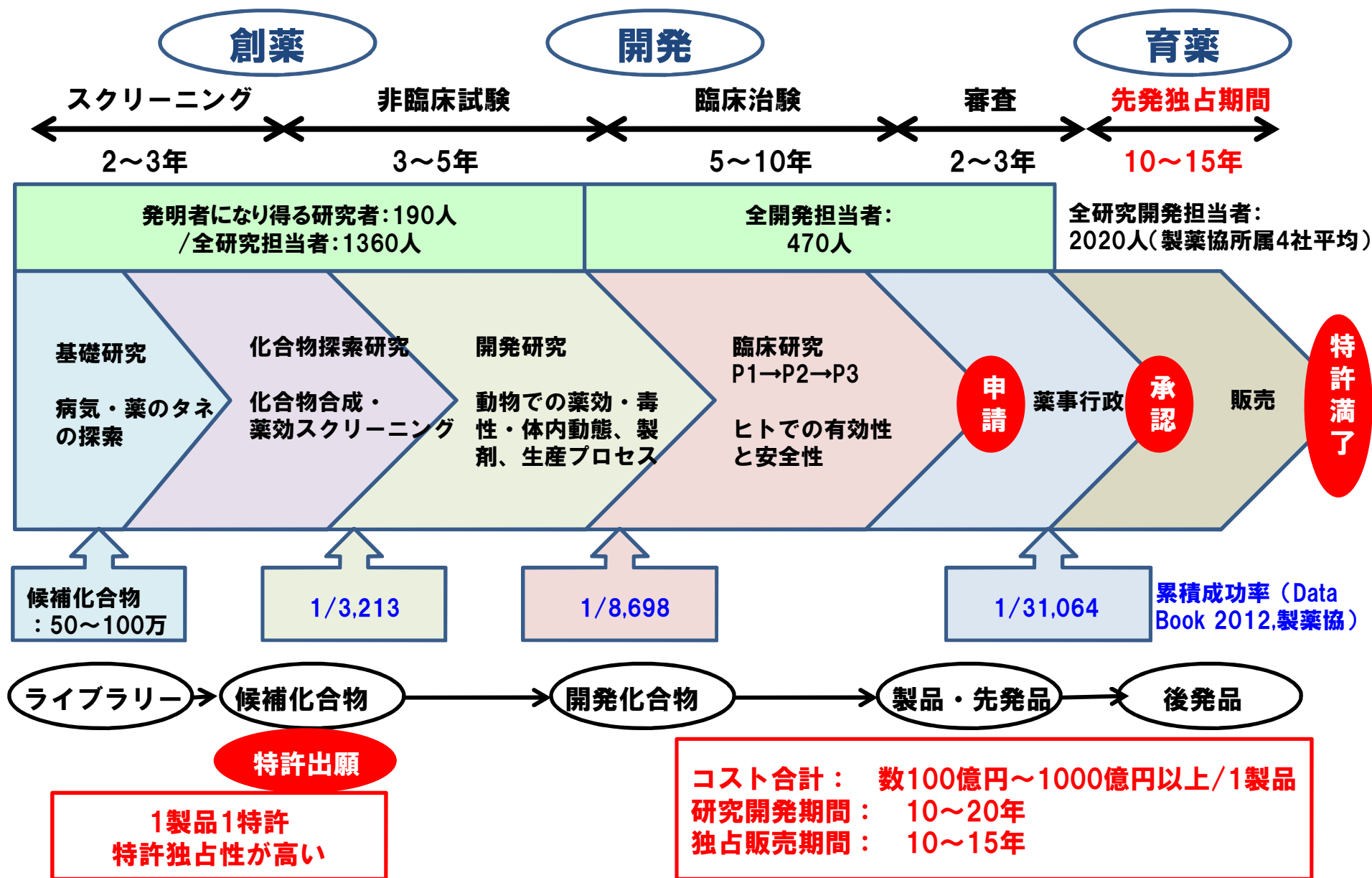
基本特許は原則一つ（物質特許）

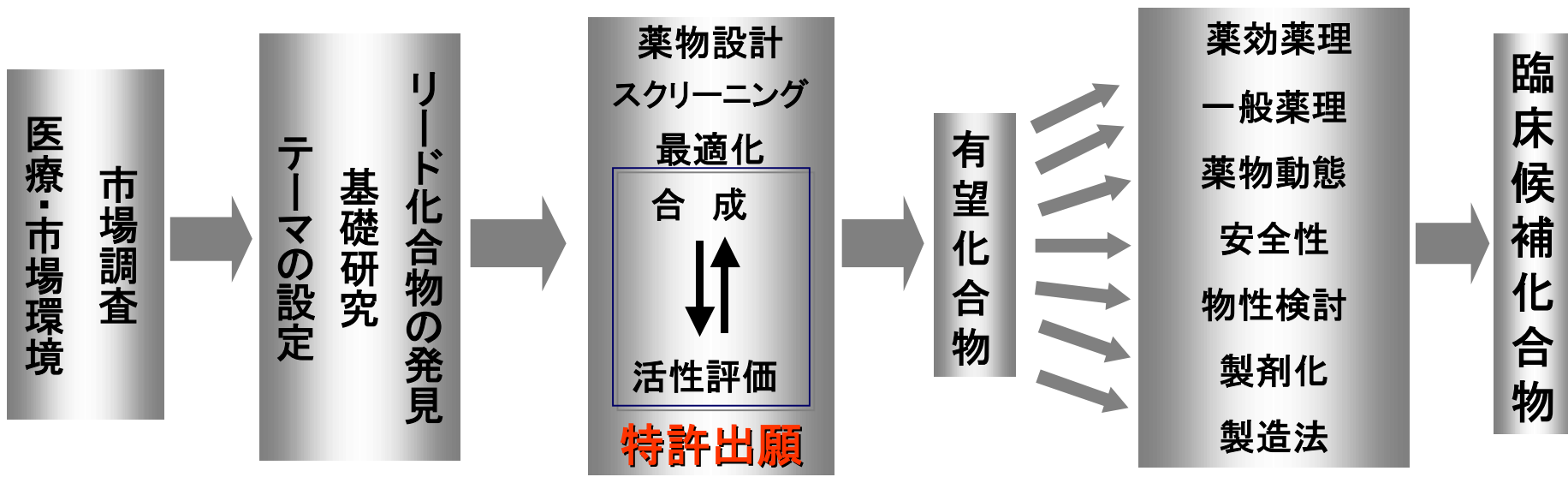
特許独占性が高い

高額ライセンス料

特許により製品開発を断念するケースも多い

医薬品の研究・開発のプロセス





in vitro
↕
in vivo

← **探索段階** → ← **精査段階** →

製薬業界における課題

- ①研究～事業化まで複数のステップがあるが、1件の特許による利益が大きく、発明者に対する対価が高額になりすぎる。
- ②化合物としては何万分の1の確率である。
- ③発明者と関連者との間の不公平感 たとえ高度・専門的な基礎技術・知見の蓄積が発明に貢献していても評価されない。
- ④研究チーム間での技術情報やアイデアの自由な情報交換・共有・開示の遅れないし秘匿
- ⑤研究業務のうち「発明」につながらない業務へのインセンティブ低下